



6.18 海外移住と沖縄



Uchinā
Network
Concierge

6.18 Japanese Overseas Migration & Okinawa



展示期間：2021年6月16日～7月19日
展示場所：沖縄県立図書館5F 展示架1
主 催：沖縄県立図書館 & JICA沖縄
ウチナーネットワークコンシェルジュ

笠戸丸 『1 Século de História em Fotos 写真で見るブラジル沖縄県人移民の歴史 1908-2008』より転載
K334/B91 資料ID：1007398157

世界の移民の日



6月18日 海外移住の日・日本人移民の日

1908（明治41）年に第1回ブラジル移民を乗せた笠戸丸がサントス港に到着した日を記念して、1966（昭和41）年に日本で制定されました。

6月20日 国際日系デー

1868（明治元）年に日本から初の集団移住者がハワイに到着した日を記念して、2018（平成30）年の第59回海外日系人大会 in Hawaii で決定されました。

10月30日 世界のウチナーンチュの日

2016（平成28）年の第6回世界のウチナーンチュ大会で沖縄県が制定しました。

12月5日 金武町移民の日

1899（明治32）年に沖縄県から第1回ハワイ移民が那覇港を出発した日を記念して、2015（平成27）年に、金武町が制定しました。

12月18日 国際移民デー（国際移住者デー）

2000（平成12）年に国連が制定した移民に関する記念日。



ブラジル移民勧誘
ポスター



日本移民100周年
記念硬貨



神戸港移民乗船記念碑
菊川 晋久作（2001年）



Imigrantes japoneses recebem aula de Língua Portuguesa,
a bordo do navio rumo ao Brasil
船上でポルトガル語の勉強に励む移民たち

船上でポルトガル語の勉強

移民とは？ -世界のウチナーンチュのルーツを知ろう-



移民とは、異なる言語や異なる文化の国へ移り住むことです。戦前、沖縄からは、ハワイ、ブラジル、ペルーなどに、およそ75,000人が移民として出国しています。戦後は、アルゼンチンやボリビアなど南米への移住が多く、およそ18,000人が海を渡りました。そして、現在は、沖縄をルーツに持つ県系人が世界におよそ420,000人いるとされています。

下の図は「1世」「2世」とは何かを説明したものです。ブラジル人のエレナが自分の家族について説明しています。

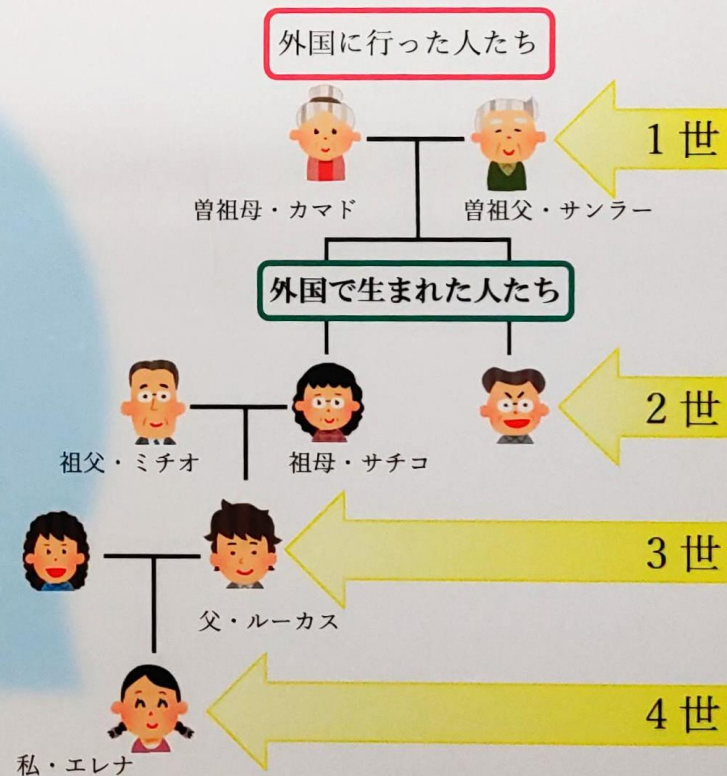
私の名前はエレナです。

私の曾祖父（サンラー）と、曾祖母（カマド）は、労働移民として沖縄からブラジルへやって来ました。なので2人は1世になります。

2人にはブラジルで子どもが生まれました。

それが、私の祖母・サチコです。サチコおばあちゃんは1世の子どもなので2世になります。

サチコおばあちゃんは結婚後、ルーカスをうみました。そのルーカスが私のお父さんで、3世になります。私はルーカスお父さんの娘なので、4世、つまり最初にブラジルに来た曾祖父母からかぞえて4代目になります。



第一回 沖縄系ハワイ移民 -1900（明治33）年1月16日 26名がハワイ上陸



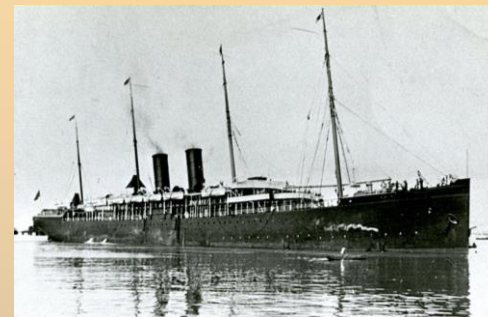
沖縄県における海外移住の始まりは、「移民の父」と呼ばれた當山久三の努力によって実現しました。

移民の背景には、1879（明治12）年琉球国から沖縄県へと体制が変わり、土地整理が行われたことにより、これまで土地に縛られていた農民が土地を手放すことで海外渡航の資金を得やすくなったことや、1898（明治31）年に沖縄県に施行された徴兵令に対する徴兵忌避などがあげられますが、最も大きな要因としては度重なる飢饉などによる経済的困窮があったと考えられています。

また、日本国政府も近代国家に移行し、人口増加と経済的困窮といった課題の解決策として、移民政策を重要視していました。

沖縄県から初の海外移民が旅立った1899（明治32）年、当時の奈良原繁県知事は海外移民に消極的でしたが、謝花昇と當山久三の懸命な働きかけと、県政の立場から海外移民の必要性を重視して海外移民の送り出しの許可を与えました。

第一回ハワイ移民は上原九八郎（糸満村出身）を団長とする26名でした。その後、當山は1903（明治36）年の第2回移民団とともにハワイへ渡航し、移民の実情を調査して帰郷しました。そして自ら移民会社の業務請負人となり、1908（明治41）年に「日米紳士協約」によってハワイ移民が一部制限されるまで、ハワイや南北アメリカ大陸へ多くの移民を送りだしました。



移民船チャイナ号
『公文書館資料にみる海外移民の軌跡』より転載
K334/O52
資料ID：1006708158



金武町にある當山久三銅像
昭和6年完成、同37年再建
『金武町史』第1巻移民・本編
より転載K21.09/KI41/1-1
資料ID：1003744024

沖縄系ハワイ移民のくらし



明治38年にハワイに渡航した
大城平郎の日本帝国海外旅券章
(資料ID:1008826571)



大城平郎の呼び寄せで、大正5
年に渡航した妻・カメの日本帝
国海外旅券章
(資料ID:1008826571)



大城平郎とカメの婚姻証明書
大城カメの外国人登録証
大城カメのハワイ準州身分証明書
(資料ID:1008826571)



当時、移民に行った多くの独
身男性が、郷里から花嫁を呼び
寄せて結婚しました。

1940年代、日本とアメリカの
戦争が本格化し、日系人は外国
人登録が義務づけられるようにな
りました。

第一回ブラジル移民、笠戸丸でサントス港に上陸



-1908（明治41）年6月18日 沖縄県出身者325名を含む781名がサントス港に上陸-

この第一回ブラジル移民は、その船名から「笠戸丸移民」とも呼ばれ、ブラジル日系社会の基盤を作った人々として広く知られています。

第一回ブラジル移民781人中、325人が沖縄県出身者で占めていました。当時、笠戸丸に乗船していた香山六郎の回想録には「沖縄県移民の殊に女性の服装は異彩を放っていた。短い衣物に半てん、伊達巻としごきともまがう狭い帯、手の指の甲に斑点の入墨、櫛がわりか何かさじみみたいなものに髪毛を巻いている姿は、沖縄の生活状態が内地のそれより低下しているのを物語っているようだった。沖縄弁も鹿児島弁も福島弁も私には解しがたかった。」と、沖縄県出身移民の様子が記されています。

笠戸丸は、4月28日に神戸港を出航し、5月1日頃に沖縄県付近を通過しました。その夜、沖縄県移民の船室では三線が鳴り響いたといわれています。また、5月24日の「赤道祭」では、三線の音に合わせた空手踊りが披露されました。夢と希望に胸を膨らませて、52日間の船旅の後に、ブラジル国サントス港に到着しました。



笠戸丸とその航路

『1 Século de História em Fotos 写真で見るブラジル沖縄県人移民の歴史 1908-2008』より転載

資料ID：1007398157
K334/B91

第一回 ブラジル移民の生活



サントスに降り立った一行は、汽車に乗り移民収容所へと向かいました。収容所では荷物の受け取りや移民局による家族調べ、コーヒー耕地労働契約書への署名などが行われました。移民たちは、初めて見る水洗式トイレや、初めて飲むコーヒーの苦さに驚きつつ、ブラジルでの新生活に夢を膨らませたのでした。

沖縄県出身移民が配置されたのは、カナーン耕地とフロレスタ耕地でした。6月27日早朝、24家族がカナーン耕地へ、同日午前10時頃、残り23家族がフロレスタ耕地へと出発しました。

「金のなる木」と謳われたコーヒーの木でしたが、カナーン耕地はどの耕地よりも不作でした。併せて、食料品や日用品を購入していた耕地内の売店から高額な請求を突き付けられ、一刻も早く沖縄へ送金したい移民たちの気持ちは焦るばかりでした。1日10~12時間の農作業では収入が得られず、午前2時頃から起きて働く者もありました。収入源であるコーヒーの不作、過酷な労働、渡航費を工面した家族への送金など、彼らが直面していた問題は深刻で、より賃金の得られる仕事を求めて耕地から逃亡する人も多くいました。



サントス港（絵はがき）宮城加那所蔵資料

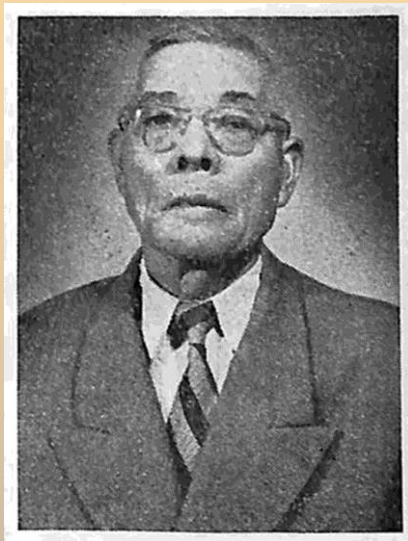


写真は『1 Século de História em Fotos 写真で見るブラジル沖縄県人移民の歴史 1908-2008』より転載
K334/B91 資料ID: 1007398157

第一回ブラジル移民 -大城カメの人生-



大城カメ



大城幸喜

『協和』NO.28 p226より転載

豊見城村上田出身の大城カメ（17歳）は、尋常高等小学校高等科3年を卒業後、同郷の大城幸喜（19歳）と結婚し、親族の勧めでブラジルへ渡航しました。

ブラジル到着後、夫妻はサンパウロ州フロレスタ耕地へと配耕されました。

沖縄で聞いていた話と全く違う状況を目の当たりにしたカメは「何のためにブラジルまで来たのか」と毎日泣き、不慣れなコーヒー労働に寝る間を惜しんで働きました。半年の労働契約が切れるまでそこで働き、その後はイトウの町近くのコーヒー園で働きました。

そんな時に、同郷の金城盛四が鉄道工事で高級がもらえる仕事があると、話を持ってきました。鉄道工夫の賃金は耕地労働の2倍だったので、すぐに飛びつきました。笠戸丸移民73人が応募し、サンパウロで集合してアルゼンチン経由でマツト・グロッソ州に向かいました。

当時、女性の労働賃金は男性の半額でした。そこでのカメの仕事は、炊事と、トロッコを押しての土運びでした。工事現場は原始林を切り開きながらのテント生活で、衛生状態の悪さから体調を崩す人が増え、一緒に働いていた従兄の外間長信さんを病気で亡くしました。

第一回 ブラジル移民の生活



鉄道工夫として働いている7年間に、夫妻は初めての子どもを授かりますが、わずか5カ月で亡くなりました。その後に産まれた子も亡くなり、立て続けに流産しました。過酷な労働に加えて、線路敷設工事のために移動生活であり、近くに病院が無かったことが原因でした。

1914年にノロエステ鉄道工事が終了し、大城夫妻はカンポグランデに定住しました。鉄道工事で貯めた資金を元手に、現地人を雇って枕木や薪の請負業を始めて、「大請負業者オオシロ」として親しまれるようになりました。しかし、同業者が増えて薄利になってきたので、郊外のドゥラードスに移り、ビンガ酒造りを始め、コーヒー栽培や野菜栽培なども行いました。

その後は、1930年に幸喜が体調を崩したため、再びカンポグランデ市へ移りました。そこでは、農産物の仲買で成功し、1938年に雑貨店を開きました。

しかし、第二次世界大戦が始まると、日本人は「敵性国民」とみなされ、暴徒化したブラジル人学生らによって雑貨店は火を付けられてしまい、一夜にして全財産を失ってしまいました。

そのショックで幸喜は、心身共に打ちひしがれて、眼病を患い、最後は失明してしまいました。カメと娘が裁縫で家計を支えましたが、娘も過労で倒れ、帰らぬ人となってしまいました。

大城夫妻は13人の子どもを授かったそうですが、生き残ったのは長男の義則ただ一人でした。

1967年、幸喜は長い闘病生活の末に亡くなりました。

カメもいつか沖縄に帰るという夢を叶えないまま、1983年に92歳でその生涯を終えました。

晩年までブラジルの日系社会に関わり、多くの人に親しまれたカメの記録は、様々な書籍に残されており、大城立裕著の小説『ノロエステ鉄道』のモデルになったとされています。

参考文献

『サントス第十四埠頭』（K96/F66 資料ID：1001586542）

『豊見城市史 第4巻 移民編（本編）』（K23.03/TO52 資料ID：1007969221）

『ノロエステ鉄道』（K93/O77 資料ID：1001572658）

『ブラジル沖縄県人移民史』（K334/B91 資料ID：1006713950）

「琉球新報」1978年11月20日、21日（夕刊）

『笠戸丸移民 未来へ継ぐ裔孫』（K334/A31 資料ID：1007333035）

沖縄系ブラジル移民の暮らし



「Jornal UTINA PRESS E d.244」 2018.8
資料ID：1009350675



ブラジルの国旗は「金緑旗 (Auriverde)」
とよばれています。
緑色は森林、黄色は金と鉱物資源を
象徴していて、中央の帯には「秩序
と進歩」と書かれているんだよ。



JICAと世界のウチナンチュ × Uchinā Network Concierge



JICAと世界のウチナンチュ ～ビジネスのつながり～

「OKINAWA To 沖縄」プロジェクト
ボリビアのオキナワ移住地で生産した全脂大豆を沖縄県に輸出



2021年(6/30) 2月21日(日) 沖縄タイムス



オキナワから 沖縄へ大豆

ボリビア移住地で収穫・出荷
経済交流「貴重な一歩」

【提供】沖縄タイムス社 2021年2月21日(日)1面



【提供】琉球新報社 2020年5月19日(日)6面

この新聞記事に使用されている「オキナワ」が気になった方もいるのでは？
これは、沖縄県出身者が開拓したボリビアのサンタクルスにあるオキナワ移住地の「コロナ沖縄農牧総合協同組合(CAICO)」が生産した全脂大豆(油脂を含んだまま熟処理後に粉砕した大豆粉)が、沖縄県に輸出されることになったことを伝えた記事です。

今回の全脂大豆輸出は、ボリビアでオキナワ移住地が開拓されてから67年以上の歳月が経過した中、移住者たちが生産した製品が、ボリビアのオキナワから沖縄に初めて輸出された歴史的なことです。
この輸出は、「ゆいまーる牧場」の金城利憲・代表が、JICA 主催の「中南米日系社会との連携調査団の派遣事」(2020年2月)に参加したことがきっかけとなりました。その後、南米との経済交流を行いたいという強い意思を持って、旧知の仲だった「ISHIMA S.R.L」の島袋正克・代表取締役(在ボリビア)に CAICO との商談および石垣島までの原材料調達から生産・販売までの物流を管理する一連の過程を依頼して実現しました。

これまでオキナワ移住地と母国の沖縄とは文化的交流は盛んでしたが経済的な交流はなく、移住者の生産物が沖縄県へ本格的に輸出されたことはありませんでした。

金城氏と島袋氏は「オキナワ to 沖縄」プロジェクトとして、移住者たちが生産したほかの生産物も輸出できるような、発展的な可能性を秘めていると話しています。

あと10年すると、「オキナワ産」の表示を目にするのがあたり前になる日も近いかもしれませんね！



JICAの取り組み:中南米日系社会との連携調査団

JICAは、移住先国で活躍する日系人と日本の民間企業が連携し、日系社会が移住先国の開発課題の解決に貢献し、さらに民間企業が中南米への事業展開を実現するといった互恵的な協力の可能性を探ることを目的に、2013年から毎年1～2回、日本の民間企業が参加する調査団を派遣しています。

2020年2月の第9回目となる調査団には「ゆいまーる牧場」をはじめ13社が参加し、ブラジルへ派遣しました。その結果、新聞記事の「ゆいまーる牧場」と「ISHIMA S.R.L」のように、沖縄の民間企業と中南米の日系社会との新たな関係が構築され、さまざまな事業に繋がっています。

日系社会をパートナーとして中南米でのビジネスや国際協力に一緒に取り組んでみませんか？
ご関心をご相談がある方は、ぜひ沖縄センターへお問い合わせください。



JICAと世界のウチナンチュ ～人材育成のつながり～

「OKINAWA To 沖縄」プロジェクト
ボリビアのオキナワ移住地で生産した全脂大豆を沖縄県に輸出

ウチナンチュの力はすごいんです！
JICA沖縄センターで
研修を受けた県系移民、
ルーツをパワーに
かえています！

ルーツの地域活性化に活用

日系社会研修受入事業は、日本国内のNGO、大学、企業、自治体などが持つ、それぞれのノウハウ・経験を活かし、中南米の日系社会からの研修員受入を実施したいという提案に対し、JICAが実施を委託して行う国民参加型事業です。

中南米の日系人への技術協力を通じて国づくりに貢献し、また、日系社会研修員の受入れを通じて、地域が主体となる中南米日系社会への支援を実現するとともに、広範な市民参加を促進することを目的としています。

国内最南端のJICA拠点であるJICA沖縄では、亜熱帯性・島嶼性や文化・歴史を経てきた沖縄県ならではのノウハウや技術を活かした研修を年間約50コース実施し、研修員たちは沖縄で専門技術を習得するのみならず、沖縄県民の皆さまとの交流を通して多くのことを学びます。そして、「いちゃりばちョーデー」の心に触れ沖縄を好きになって帰国した研修員は、ウチナーファンとして、それぞれの母国で様々な分野にて活躍しています。

“移民県”である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

「移民県」である沖縄県の日系社会研修は、参加者たちのルーツへの関心も高く、研修を修了して帰国後も各国県人会の活動や若い世代のネットワークで活躍する人も多く、沖縄・日本の架け橋となる人材育成の場ともなっています。

JICAと世界のウチナーンチュ × Uchinā Network Concierge



【沖縄県委託事業】次世代ウチナーネットワーク継承基盤構築事業 【連携協力】独立行政法人国際協力機構(JICA)沖縄センター

Uchinā Network Concierge

ウチナー ネットワーク コンシェルジュ

県外・海外のウチナーンチュとつながれる場所

UNC (ゆーえぬしー) は、SNS交流やイベントを活発に行い、
県外・海外のウチナーンチュと県民の、交流の活性化に取り組みます！

5つの働き



ウチナーネットワークに関する
お問い合わせや相談を受け付け
ています。お気軽にお立ち寄り
ください。また、沖縄県立図書館
が実施している「移民1世ルーツ
調査・相談サービス」の多言語
サポートを行います。



沖縄県在住者同士や海外ウチナーンチュ
との交流イベントを、対面やオンラインで
定期的に開催しています。



各国のイベント情報を、WEB・
SNSなどで多言語での発信
をしています。



県民と交流を通して、ウチナー
ンチュ子弟等留学生のコア人材
の育成に取り組みます。



移民に関する人物、文書、モノの
情報収集やお問い合わせ対応を
しています。

JICA沖縄センター内に、
2021年4月オープン！



毎月2回のFacebookなどの動画配信、
月1回のメールマガジン発行、その他
イベントやお知らせがいっぱい！



共同運営

海外県人との強いネットワーク！
「WYU」一般社団法人 世界若者ウチナーンチュ連合会

国際協力人材育成のプロフェッショナル！
「JOCA沖縄」公益社団法人 青年海外協力協会 沖縄事務所

開館時間

平日 10:00～18:30
※休み：土日祝祭日、慰霊の日、年末年始(12/29-1/3)

アクセス

ゆいレール経塚駅から徒歩10分

場所

〒901-2552
沖縄県浦添市前田1143-1
JICA沖縄センター内 1階

電話

070-3801-8670

メール

info1@wun.jp

ゆんたくや展示見学など、
お気軽にどうぞ！
お待ちしております！



世界のウチナーンチュの食卓 (沖縄・日本料理と現地とのミックス料理)



①



②



③



④



⑤

①ブラジル：あふれんばかりに具材
がのった沖縄そばが食べられる！
②アルゼンチン：ミラキヤ(お肉の
揚げ物)がトッピングされた、沖縄
そばが食べられます！
③アルゼンチン：サーターアング
ギーは無人会のお祝いの席によく
できます。
④ハワイ：ポーク卵おにぎりに似て
いる「スパムムスビ」です。
⑤ハワイ：豆腐チャンプルーですが、
味付けがハワイ風で面白い味！

ここは沖縄？！

沖縄料理、
みつけた！



私の出身地、アルゼンチンで県系・
日系人のお祝いパーティーには、
必ず寿司が出てきます！
寿司はサーモンが人気で、巻き寿司
には、刺身にアボガドやチーズを
合わせているものが多いです。
ほかに、カレーライスや
クリーム入りのどら焼き、
サーターアングギーも
よく食べられています。



まだまだあるよ！

沖縄料理、
みつけた！



沖縄そばのモニュメントが有名なメルカド
(市場)の中に、豆腐屋さんがいました。
その名も、「OKINAWA TOFU」！
ちゃんと国産の木綿豆腐でした。

JICAと世界のウチナナンチュ × Uchinā Network Concierge





UNCスタッフ おすすめの本と食



海を渡った1世たちの子どもたち(2世)についても知ることができる本!

『同定の政治、転覆する声 アルゼンチンの「失踪者」と日系人』
著者: 石田智恵
発行年: 2020 発行所: 春風社

ウチナナンチュ移民の2世の人たちがウチナナンチュとしてもアルゼンチン社会の1人として一生懸命生きていたことが垣間見えます。
ぜひ読んでほしい一冊です。

おすすめ!

Lomo Saltado(ロモサルタド)
牛肉とフライドポテト、野菜の炒め物



ペルー料理の中でも人気のメニュー。揚げたポテトをさらに玉ねぎやトマトと炒める。味もしっかりとついていて、とてもおいしい! 一度は食べてみてください!



金城 さつき (JOCA)



比嘉 アンドレス (WYUA)

私と家族にとって、思い出もある大切な本です!

『旧名護町人アルゼンチン移住誌』
編集: 東江新得 発行年: 1994
発行所: CLUB NAGO

私の家族のストーリーもあります。名護市にある名護市史編さん室と協力してつづられました。

旧名護町出身者たちの苦労した話だけではなく、その子どもや孫、家族の生活やおもしろい話もあって、本当に楽しい本です。
ぜひ読んでみてくださいね!

おすすめ!

Costilla(コスティージャ)
牛のあばら骨つき肉



グリルドを知っていますか? アルゼンチンでは、炭火でじっくり肉を焼く料理で、特にこのアサドで焼いたコスティージャは、牛肉の部位で1番おいしいところです。
Muy rico(マイ リコ)! とてもおいしい!

世界のウチナナンチュのゆいまー精神に感動!

『躍動する沖縄系移民 ブラジル、ハワイを中心に』
編集: 町田宗博・金城宏幸・宮内久光
発行年: 2013 発行所: 彰流社

大学の頃、この本と出会いました。世界のウチナナンチュのゆいまー精神に驚かされる本です。
皆さんぜひ!!

おすすめ!

POKE(ポキ)
ハワイの海鮮刺身の漬け料理



ハワイの中でも人気のメニュー。ポキやボケとも呼ばれ、マゴロだけじゃなく、サーモンやタコを使ったものもあります。ハワイに行った時にはぜひ! Ono! おいしい!



金城 しずく (WYUA)



UNCスタッフ おすすめの本と食



世界各地のウチナナンチュ、先輩たちのライフヒストリー!

『ワールド・ウチナナンチュ 忘れ得ぬ人々』
著者: 前原信一 発行年: 2020
発行所: ボーダーライン

世界各地の先輩たちへ長年取材をされた前原さんが出会った人々との記録。世界へ渡ったウチナナンチュの先輩たちのライフヒストリーが詰まった一冊です。

おすすめ!

Aji de gallina(アヒデガジーナ)
メス鶏の唐辛子クリームソース煮込み



ペルーを代表する伝統料理。黄色い唐辛子と鳥を煮込んだ、見た目はカレーライスのような料理です。唐辛子を使っています。が、クリームソースめたいで最高!



比嘉 千穂 (WYUA)



上原 真紀 (JOCA)

子どもたちに読み聞かせてほしい本!

『リリアン/沖縄へ行く』
編集: 松本 カリナ サトミ 他
発行年: 2014
発行所: 特定非営利活動法人 沖縄NGOセンター

ブラジルの県系人の方の体験を元に作成されました。小学校低学年からよめるので、多くの場所で読み聞かせの教材としても使われています。
ぜひ、ご家庭で読んでください!

おすすめ!

Salteña(サルテーニャ)
肉と野菜のエンパナダ スープ仕立て



ボリビアの朝の定番メニュー。皮がしっかりとサクサクしていて、中に入っている具材と相性ばっちり! 具材には、オリーブの葉やゴゴロ野菜、そしてジュシーなお肉がスープとともに隠れています! ボリビアでは毎朝、食べていました! いろんな食感もたのしめる料理です。

日系人やウチナナンチュってなんだろう...と考えられる!

『日系人とグローバリゼーション 北米、南米、日本』
著者: レイン・リョウ ヒラバヤシ他
発行年: 2006 発行所: 人文書院

私たちがよく知る「世界のウチナナンチュ」よりも海外へ渡ったウチナナンチュにとって身近な「日系人」という言葉。海外で生きていく上で、沖縄や日本の血をひく日系人たちが、どのように自分自身のアイデンティティを継承しているのか、その時の移民国の社会はどうだったのか、いろいろな視点から分析している。
学術的すぎない読みやすい本です。

おすすめ!

Morcilla(モルシージャ)
血を混ぜた大きいソーセージ



手頃なサイズのソーセージで、豚肉や牛肉、どちらも最高!

アルゼンチンで食べた、マイナーなメニュー。沖縄のチャーリチャーのソーセージ版に近い料理で、ご飯と一緒に食べるととてもおいしい! チョリソーもいけど、これも好き!



喜久里 瑛 (JICA)

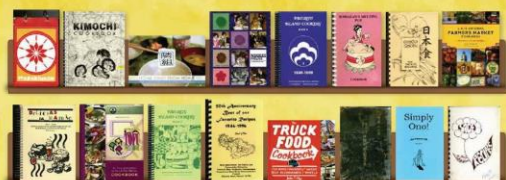
JICAと世界のウチナーンチュ × Uchinā Network Concierge



JICAと日系社会の歴史継承: JICA横浜 海外移住資料館

日本の海外移住の歴史を知るために、ぜひ一度は訪れてほしいのがJICA横浜 海外移住資料館です。
神奈川県横浜市にあります。ホームページは移民学習に関する情報もあります。ぜひアクセスください！

ー レシピと一緒に思い出も残そうー



日系人のレシピ

ー受け継がれる日本の味と家族の記憶ー

2021.4.27 (Tue) ~ 11.21 (Sun)



JICA横浜 海外移住資料館 開館時間: 10:00-18:00 (最終入館 17:30) 休館日: 月曜日 (祝日の場合は翌日)
会場: JICA横浜 海外移住資料館 協力: キョーセン 横浜文化芸術センター



日本人移民史における女性の役割を考えると、軍事や子育てのほか「婦人会」という日本語が日系社会各地で今も使われているように、女性によるコミュニティ活動があります。その女性の貢献を記録したのとして最初に思い浮かぶのがレシピ集です。

異郷の地における婦人の様々な工夫や努力が、そこに記録されています。本展示では、移住先各地のレシピを通して見る女性の貢献や、そこから見えてくる食の変遷、さらにその歴史を紹介します。



移住先での料理や食事に関する歴史を伝える「婦人会」の活動写真 (ADESCC) 2015年

TONJIRU ー受け継がれる豚汁レシピー



※ブラジル日系二世のオズ・ツジタウさんが、母から受け継いでいるレシピ。大根、こんにゃく、ごぼうなど、日本産が選んでいる

Receita de Cuzur Tuijowa

carne de porco com gordura cortar fno em pedacos pequenos - daikon - konnshaku - cenoura - gobo - inhame (batatinha) - pode por mais ingredientes - salte caldinha (optional) - dashi pode ser de iriko ou hondashi - missô

Fritar a carne e colocar os ingredientes até o daikon ficar mole. Saltear por 5 minutos, após mais ou menos de 15 a 20 min de cozimento. Quantidades dos ingredientes depende da quantidade que irão fazer. Dashi, missô igualmente. Servir com gengibre picado.

「あまの島」



ブラジル日系二世のオズ・ツジタウさんが、母から受け継いでいるレシピ。大根、こんにゃく、ごぼうなど、日本産が選んでいる



ブラジル日系二世のオズ・ツジタウさんが、母から受け継いでいるレシピ。大根、こんにゃく、ごぼうなど、日本産が選んでいる



ブラジル日系二世のオズ・ツジタウさんが、母から受け継いでいるレシピ。大根、こんにゃく、ごぼうなど、日本産が選んでいる



ブラジル日系二世のオズ・ツジタウさんが、母から受け継いでいるレシピ。大根、こんにゃく、ごぼうなど、日本産が選んでいる

JICA 横浜 海外移住資料館
開館時間: 10:00-18:00 (最終入館 17:30)
休館日: 月曜日 (祝日の場合は翌日)
〒223-0001 横浜市中区東山3-1
TEL: 045-653-3237 E-mail: jicayc_jp@jica.jp
URL: https://www.jica.jp/jp/jmny/

入館無料



アクセス: 山手線「横浜駅」から徒歩15分

詳細は、
海外移住資料館
ホームページへ！



企画展示の特集です！
とてもおいしそうなお食べ物の
写真がいっぱいなので、
たのしく読めます♪

『海外移住資料館
だより』はこちら！



「食」はその時代の家庭や社会状況を映し出すことから、その料理法を記したレシピは「食」から見た社会の記録でもあります。
移住資料館は、日系人の方々が残した様々なレシピ集を保存しています。本展示では、これらレシピ集の一部を紹介し、日系社会における食の変遷や、そこから見える生活や文化、伝統への考え方、更には食の面で中心的な役割を担った「婦人会」等による料理への工夫や、家族や社会への貢献を紹介します。



Uchinā Network Concierge からおすすめの本リスト

	タイトル	著者・编者	発行年	発行所	おすすめポイント！
1	『同定の政治、転覆する声 アルゼンチンの「失踪者」と日系人』	石田智恵	2020	春風社	海を渡った1世たちの子どもたち(2世)についても知ることができる本！ ウチナーンチュ移民の2世の人たちがウチナーンチュとしてもアルゼンチン社会の1人として一生懸命生きていたことが垣間見えます。 ぜひ読んでほしい一冊です。(さつき)
2	『旧名護町人アルゼンチン移住誌』	東江新得	1994	CLUB NAGO	私と家族にとって、思い出もある大切な本です！ 私の家族のストーリーもあります。 名護市にある名護市史編さん室と協力してつくられました。旧名護町出身者たちの苦労した話だけではなく、その子どもや孫、家族の生活やおもしろい話もあって、本当に楽しい本です。 ぜひ読んでみてくださいね！(アンドレス)
3	『躍動する沖縄系移民 ブラジル、ハワイを中心に』	町田宗博 他	2013	彩流社	世界のウチナーンチュのゆいまーる精神に感動！ 大学の頃、この本と出会いました。世界のウチナーンチュのゆいまーる精神に驚かされる本です。 皆さんもぜひ！！(しずく)
4	『ワールド・ウチナーンチュ 忘れ得ぬ人々』	前原信一	2020	ボーダーインク	世界各地の先輩たちへ長年取材をされた前原さんが出会った人々との記録。 世界へ渡ったウチナーンチュの大先輩たちのライフヒストリーが詰まった一冊です。(ちほ)
5	『リリアン沖縄へ行く』	松本 カリナ サトミ 他	2014	特定非営利活動 法人 沖縄NGOセ ンター	ブラジルの県系人の方の体験を元に作成されました。小学校低学年からよめるので、多くの場所で読み聞かせの教材としても使われています。 ぜひ、ご家庭で読んでください！(まき)



Uchinā Network Concierge からおすすめの本リスト

	タイトル	著者・編者	発行年	発行所	おすすめポイント！
6	『世界のナカグスクンチュのおはなし』	中城村教育委員会	2019	中城村教育委員会	移民について知りたいな～という人におすすめ！ 中城の移民の歴史と現在の世界のナカグスクンチュとのつながりがわかる、おもしろいがつまったA4横開きの絵本風につくられた小冊子。「あなたはどの移民タイプ？」など、心理テスト感覚で移民した人たちのパターンも学べ、ルーツ探しの調べ方も知ることができる、子どもから大人まで楽しめます！（あき）
7	『移民と日本人』	深沢正雪	2019	無明舎出版	戦争の体験や戦後の影響が移民へとつながっていたんだと改めて感じさせられる本です。 本の中に登場する上原幸啓さん（ブラジルでお話を聞かせてくださった）、そして「戦後移民をしたよ」とおっしゃっていた方々のことを思い出し、またブラジルへ会いに行きたくになります。（さつき）
8	『空白の移民史 ニューカレドニアと沖縄』	三木健		シネマ沖縄	戦争によって引き裂かれた「家族」の絆を、空白になってしまった歴史を人と人の交流を通して埋めていくことで、結びなおしていく記録。 「家族」とはなにか、アイデンティティとはなんなのか、戦争はなにを生み出したの、考えさせられる本です。 2018年度文化庁映画賞大賞を受賞したドキュメンタリー映画『まぶいぐみ』の原作本となっているので、どちらが先でもよいので、ぜひ両方にふれてほしいです！（あき、さつき）
9	『マブイの往来 ニューカレドニア・日本 引き裂かれた家族と戦争の記憶』	津田睦美	2009	人文書院	リスト8の本とストーリーがつながっている本です。 先にふれたドキュメンタリー映画に出演されていますが、早くからニューカレドニアに残された沖縄移民の子弟たちと向き合ってサポートしてきた津田さんが、写真や資料とともに人々の足跡を伝えてくれます。 ぜひ、読んでほしい一冊です。（あき、さつき）
10	『沖縄ディアスポラ・ネットワーク グローバル化のなかで邂逅を果たすウチナーンチュ』	藤浪海	2020	明石書店	ウチナーンチュの多く住む街、神奈川県鶴見区。 沖縄県からの本土出稼ぎする人たちと海外へ渡ってから日本へデカセギ・移住者たちが、この地区に集まる。 どのように（どのような）沖縄アイデンティティを持ち、そして継承されていくのか。ボリビアやブラジルからのウチナーンチュたちにも丁寧に聞き取りを行ってまとめられた本です。 毎年、ウチナー祭で盛り上がるこの鶴見で、生活する人々の姿をぜひこの本から見てもらいたいです。（あき、さつき）